

令和3年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立稲生小学校	本年度の活動(手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
<p>学力向上</p>	<p>1 生活規律</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動の推進 廊下歩行やトイレの使い方の生活規律の徹底 人の役に立つ喜びと奉仕の心を育てる活動の推進 <p>2 学習規律</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き方・話し方、書き方などの学習規律の定着 <p>3 学力保障</p> <ul style="list-style-type: none"> どの子にもわかる授業づくりの推進 思考力・判断力・表現力の育成 <p>4 読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書チャレンジ・多読賞・親子読書等の推進 <p>5 家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携した家庭学習の習慣化 自主学習の推進による学習意欲の向上 <p>6 キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招聘した出前授業の実施 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度から児童会・代表委員であいさつ運動に取り組む成果が高学年(5・6年生)に出てきた。一方であいさつをする子が減った学年もある。 ● 決まりを守っている児童が5年生(87%→90%)6年生(91.6%→94%)増加した。学校のリーダーとして規範意識が高まった。ほかの学年も割合が下がっているところもあるが、目立った下がり具合ではない。 ● 「授業の内容がよく分かっている」という児童が87.5%と、昨年度比-2.7%にとどまっている。 ○ 4. 5年生算数科において習熟度別少人数指導を行っている。1クラスを2コースに分けてより細やかな指導を行うことができた。 ○ 児童が自分の考えをもち理解を深めるための授業研究や自主研修会等を校内研修で積極的に取り組んだ。 ○ 一人一台学習端末を活用したわかる授業づくりに取り組んだ。児童のICT活用スキルが向上した。 ○ コロナ等の感染症対策のため、図書館の利用に人数制限を設けたが、年間貸出冊数35冊を達成する見込みである。 ● 本年度は、ドリルパークなどICT機器を活用した家庭学習も取り入れ家庭学習の定着を図ったが、家庭学習の習慣化についてはまだ十分でない。 ○ 学年に応じて段階的に自主学習に取り組んでおり、家庭学習への意欲へと繋がっている。 ○ 家庭学習への意欲について、特に高学年の児童が昨年度比で高まっており(5年生1.1%、6年生6.1%増)、校内研修の取り組みの成果が出ている。しかし、全国比、県比では大きく下回っている。 ○ コロナ等の感染症対策で、例年のように外部講師を活用することが難しかったが、前向きに招聘している。 ○ ボランティアにたくさんの方々に参加いただき、大きく尽力いただいた。 	<p>1 生活規律</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あいさつについて、児童アンケートでは昨年とほぼ変わらないが、保護者アンケートでは-10%以上になっている。この意識の違いは、コロナ禍で人の交わりが減ったという保護者の意識から来ているのではないかと考えられる。 ● 学校内では児童により差がありますが、それなりにできていると思う。課題は、地域でのあいさつにあり、大人に大きな課題があるが、それを協働で前進させていくべきである。 ● 地域の行事への参加を推進させる必要がある。(喜びを感じる行事、子どもがやる行事の企画。子供食堂での手伝い等) ● 今は教師がいて着席ができていますので、今後は、子どもたちだけでも「チャイムで着席、挨拶、静かに待つ」ことが定着することを目指すべきである。 ● 登下校時、進んで大きな声であいさつできる児童が多く、今後も児童会などで取り組んでほしい。 ○ 大きな声であいさつができています。 ○ 登校時のあいさつ(おはようございます)と下校時のあいさつ(ただいま)が春(1学期)から冬(2学期)にかけて少しずつではあるが増えている。 ○ 廊下で会っても挨拶ができています。 ○ ボランティアの時、チャイム着席ができていた。 <p>2 学習規律</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 90%近い児童・保護者が肯定的な回答をしているのはよい。さらに数値を高めるためには、校内で一貫した取り組みが必要である。 ● 父兄を巻き込んだ活動にすべきである。 ● 色々と会話する中で子ども達ははっきりと物事を言う言葉のキャッチボールできコミュニケーション図られている。 <p>3 学力保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の理解は、児童も保護者もアンケートで約90%が肯定的に答えているのはよい。 ○ 児童アンケート5番が、昨年比プラスになっている。授業研究等の成果と考えられる。 <p>4 読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保護者アンケートで昨年比マイナスが大きい。原因はわからないが、コロナ禍で学校からの働きかけが少なくなっているのではないかと。児童アンケートで児童の意識をつかむ必要がある。 ● 子どもたちに読書の喜びを増長させる必要がある。 <p>5 家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保護者アンケートでは、昨年比の変化は少ないが、児童アンケートではマイナスが大きい。「ドリルパークなどICT機器を活用した家庭学習も取り入れ家庭学習の定着を図った」ということで、コロナ禍で、家庭学習を進める取り組みはされてきたのではないかとと思われる。今年はリモート学習など特別な学習形態をとったことはあるが、マイナスになっている理由について子どもたちの意識をつかむ必要がある。 ● 家庭学習は、家庭によって相当違うかもしれない。個人情報で問題にならない方法で統計的設問し実態把握をする必要がある。 ● 2年生算数(時計)で理解できていない児童がいたので、復習も含め家庭学習の習慣を定着させる必要がある。 	<p>1 生活規律</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あいさつに関しては、学校内での意識は高まっているが、地域・家庭での意識に課題が残る。「あいさつは人と人がつながる第一歩」として、自分から進んで行うことができるよう、日々の指導を続けていきたい。また、校内全体であいさつを啓発する活動が少なかった。コロナ禍の中だが、学校全体で取り組める活動を来年度増やしていく。 ● 生活規律に関しては、自分から時計を見て行動する子が増えた。チャイム着席はほとんどの子ができるようになったが、その後の行動は課題がある。「座る」が目的ではなく、「次の学習の準備」「静かに待つ」など、学習に対する規律を定着していく必要がある。 ● 掃除に関しては、2学期から「もくもく掃除」を合言葉に全校で取り組んできた。合言葉を意識して取り組もうとする子が増えた。一方で掃除を休み時間のように過ごす子も少なくない。喋りながら掃除をしたり、チャイムが鳴る前に終わったりなど課題が多い。「チャイムが鳴るまで静かに掃除を続ける」を意識して、来年度も指導を続ける。 <p>2 学習規律</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話し名人、聴き名人を引き続き意識させる。 ● チャイムスタートがどの学年でもできるように指導していく。 ● 『こんな稲生っ子になろうね』を通して引き続き家庭への啓発を行っていく。 <p>3 学力保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の思いや考えをもち、表現し、それらをもとに深め合い高め合っていく子どもの姿をめざして授業づくりに取り組んできた。自分の思いや考えをもてる子どもたちが増えてきたので、それらを書いたり話したりするなどの表現する力も伸ばしていけるように授業を工夫していきたい。 ● ICT活用の方法を校内や他校で共有する等、研究しながら、思考力・判断力・表現力等の力をつけていく。 <p>4 読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校での取組を家庭や地域に通信等で伝えていく。 ● 発達段階に合わせた読書活動の取組を引き続き積極的に行うことで自発的に読書をする習慣をつけていく。 <p>5 家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 家庭学習のやり方がわからなかったり、効果的な取り組み方がわからないと思う児童もいるため、効果的に取り組んでいる児童の自主学習を広めていく。また、学年に合わせた自主学習の取り組みを掲示物や通信等で伝えていく。 <p>6 キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍の中、これまで通りの取組ができないことも多いが、子どもたちは外部から講師の方が来てくださることにも期待している。これからも、地域と協働した地域学習・体験学習を積極的に実施する。また、一斉に体育館に集めることなどは難しいが、分散したりリモートで行ったりするなど方法を考えたい。

		<p>6 キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍であったが、できる範囲で取り組んでいたのではと思う。 ○ 外部講師として、地域もしっかり取り組みたい。そのためには、地域学習カリキュラムに沿った協力の仕方を地域でも探りたい。 	
人権	<p>1 特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全校体制で見守り育てる特別支援教育の推進 <p>2 人権教育・仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権カリキュラムの作成・それに基づいた系統的な指導 ・ 互いの存在や人権を認め合い、尊重しあう学校づくり <p>3 いじめ防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども同士のトラブルに対する丁寧な対応 <p>4 不登校の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員間、職員と保護者間での情報共有に努め、早期発見・早期対応 ・ 会話や観察、つづり方指導等による児童の実態把握 ・ 学活や道徳の時間等で、児童同士がつながる活動の推進 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 支援が必要な児童について日常的に共通理解を図り、支援員やスクールライフサポーター、スクールカウンセラーなどと連携しながら、組織的に対応する体制づくりを進めることができた。 ○ 「いやな思いをして困っている」と答えた児童が1学期から2学期にかけて18人減少した。児童の様子を丁寧に確かめ「誰もが安心して過ごす」ことができるような環境づくりに取り組んだ結果である。 ○ 楽しく学校生活を送れているという児童が91.4%(前年度比+2.0%)と増加しており、児童の実態把握、児童同士がつながる活動等の取り組みの一定の効果がみられた。 ● 人の気持ちを考えようと努力しているという児童が90.4%(前年度比-1.7%)と減少した。 	<p>1 特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「支援員やスクールライフサポーター、スクールカウンセラーなどと連携しながら、組織的に対応する体制づくりを進めることができた。」ということはよかった。 ○ 地域の環境ボランティアが特別支援学級園の充実に力を注いだ。 <p>2 人権教育・仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「楽しく学校生活が遅れている」と回答している児童・保護者が90%以上でよい。 ○ 朝の登校時、上級生が下級生の面倒を見ている。 ○ 朝の登校時、子ども同士は楽しく会話している。 <p>3 いじめ防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「いやな思いをして困っている」と答えた児童が1学期から2学期にかけて18人減少した。」ことは評価できる。減少した理由を把握しておく必要がある。 <p>4 不登校の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 去年に比べたら、不登校児童が減少しているので、嬉しく思います。家庭と学校が連携して不登校ゼロをめざしてほしい。 ● 現状の実態を把握する必要がある。 ● 地域の主任児童委員、見守り隊など方々とこれらをテーマにした話し合いをするなど、地域の方々から見た気づきも参考に改善する必要がある。 	<p>1 特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「すずかっ子支援ファイル」をさらに活用するとともに、クラス全体で支援が必要な子についても見つけていく。月1回の特別支援部会を中心に支援方法についても検討・共有していく。 ・ スクールカウンセラーやスクールライフサポーター、ボランティアを積極的に活用し、多面的に子ども達を見守っていく。 <p>2 人権教育・仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの違いを認め合いながら、楽しく学校生活を送れるように、一人ひとりの子どもの実態や子ども同士の関係の把握に努め、それに合わせた対応を心がける。 ・ 人権カリキュラムを確認・修正し、それに基づいた指導を行う。 <p>3 いじめ防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いやな思いをして困っている」と感じる子の減少をめざし、「いじめ・差別を許さない」「いじめ・差別をなくそう」等の目的をもった学習を各学年が道徳・総合の時間を用いて引き続き行う。 ・ いじめアンケートをはじめ、日頃の問題行動等、加害者、被害者の両者に対し、継続的に聞き取りを行う。「みんなが安心して過ごせる学校」をめざし、丁寧な対応、指導を続けていく。 <p>4 不登校の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの子も安心できる居場所づくりができるよう、児童一人ひとりの思いに寄り添って対応する。 ・ 行きしぶりなど、不登校傾向が見られ始めたら迅速に対応する。また、担任ひとりで抱え込まず、各事例に応じて、学校・保護者・地域・関係機関が情報を共有して組織的に対応する。 ・ 引き続き、スクールライフサポーターと支援員に寄り添ってもらうことで、教室に行きやすい環境づくりに取り組む。
健康	<p>1 食育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進 ・ 食育の推進 <p>2 保健・体力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健全な生活を送るための実践力を培う保健教育の推進 ・ 体育の時間や休み時間の体力づくりの推進 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎日朝食を食べている児童が-0.9%減少している。 ● 昨年度に比べ、体を動かすことが好きと回答した児童が83.8%(前年度比-5%)と減少している。9月に新型コロナウイルス感染症が全国的にまん延したこともあり、外遊びの機会が減ってしまったことが要因と思われる。 	<p>1 食育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝ごはんを食べている児童は約95%とよいが、残りの児童の生活改善の働きかけが必要ではないか。 ● ○ 登校時、子ども達との会話の中で朝食は食べてきましたかと聞くと全員が食べてきたと言っている。 ○ 早寝・早起き・朝ごはんの指導を続けていってほしい。 <p>2 保健・体力</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍で、マスク・手荒いその他の取り組みは定着していると思われる。これらの実態についての把握や課題について検証する必要があるのではないかと。 ● 保護者アンケートでは運動の機会の減少が見られる。コロナ禍が原因であることは明らかだ。児童アンケートで運動の意欲が減少しているのは、コロナの影響とは思われるが、家にこもってゲームをしていたとしても、本来身体を動かすことは好きだろうと思うのだから、このあたりの意識を知りたいと思う。 	<p>1 食育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級、年間2回の食育指導に加えて、食育の充実を今年度も図ってきた。学校だより、学年通信などで喫食率が上がるように家庭への啓発を行っていき。 <p>2 保健・体力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍になり、マスク着用の習慣は身につけてきたが、手洗いやハンカチ、ティッシュ等の持ち物に関しては忘れる子が多いので、毎日のチェックを行っていき。 ・ 家庭で運動する機会が減っていく中、体育の授業の必要性をさらに感じる。子ども達が楽しくかつ、体力向上できるような授業改善を行う。 ・ 体力テストの結果を受けて、弱みの部分が改善されるような取組を学校全体で行う。

<p>安全・安心</p>	<p>1 交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な交通ルールを身につける交通安全教育の推進 <p>2 防災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災訓練年間計画を立て、引き渡し訓練・避難訓練を定期的に行う。 緊急時における組織的な取組の推進 <p>3 コロナ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の予防についての指導 「3密」を避けた授業づくりを行う。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度も大地震・大津波発生、火災発生を想定した避難訓練を実施した。(コロナ感染症対策のため低・中・高に分けた)実施の成果から昨年度より家庭での防災意識が増加した。(昨年度比較+3.1%) ○ 各クラスで給食の際、黙食が徹底されていた。 ○ 日々の学習や運動会等の学校行事でも感染症対策を行い、安全に学習を行うことができた。 ● 交通ルールを意識している児童の数が減少している。(昨年度比-7.8%)自転車に乗る際、ヘルメット着用の意識が低い。 	<p>1 交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヘルメット着用やホイッスル保持が昨年比で、かなり減少している。コロナ禍が影響しているのかなど原因を探る必要がある。 ● 班長旗をもった児童がいつも一番遅く、一人で登校しているが心配である。 ● 朝の登校時は見守り隊がいるのでいいが、下校時の塩屋口の交差点、コンビニ反対側の児童の信号を待つ所で、道路際まで身をのりだして信号待ちをしていて非常に危険で心配である。(左折時の車の死角になるので一歩下がれと指導しているが、なかなか浸透しない。児童の死亡事故が日本中で相次いでいるので学校で指導してもらえるとよい)。 ● 保護者アンケートで「交通安全や防災について話し合う機会」が昨年比プラスになっているのはよい。ただし、このこととヘルメットの着用低下とは相反する。 <p>2 防災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域防災委員会等の共同訓練が必要。地域との連携を行うべきである。 <p>3 コロナ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年は、コロナ対策は様々なところで行われてきたと思われる。 ○ コロナウイルス感染対策として全員がマスク着用している。 	<p>1 交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヘルメット着用率が昨年と比べて減少している。コロナ禍の中で、外出する機会も減ったかもしれないが、意識の低下が一番の要因である。交通安全教室に限らず、普段からの指導を続けていく。また、ヘルメットを着用していない子を見かけたら、その場で止めて指導を行う。家庭への啓発も併せて行っていく。 ● 1列で登校することに関しては慣れてきたが、信号待ちの時、身を乗り出したり、高学年が走って低学年を置いていたりなど課題が残る。来年度の班長・副班長の役割を担う子らに信号の待ち方や、横断歩道の渡り方など確実に伝えるように指導を行う。 <p>2 防災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍に合わせて、来年度も小規模な訓練を進めていく。それと同時に、道徳、総合、社会の教科において災害や避難などの学習をしていく。(防災ノートの活用) <p>3 コロナ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、学校全体で新型コロナウイルス感染症対策を徹底して行う。
<p>協働</p>	<p>1 職務遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> 各担当分掌における組織的な取組の推進 過重労働を避け、計画的・効率的な職務を心掛ける。 <p>2 情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校からの積極的な情報発信 家庭・地域と協働し、子どもの健全育成を図る。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 月2回のノー残業デーを設定した。4月から9月における退校できなかった教職員の割合は4%であり、教職員の意識の向上を図ることができた。 ● 4月から9月における時間外勤務は、昨年度より8.8h増加した。依然として長時間労働の状況が見られる。 ○ 学校が発信した情報を見ていると回答した保護者は97%となり、昨年度と比べ8%増加した。 ○ 地域コーディネーターを中心に、学校支援ボランティア活用の体制を整えていただいたおかげで、地域学習、出前授業等が充実した。 	<p>1 職務遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 加重労働対応として、留守番電話対応時間を平日18時から17時30分としたことは改善に繋がる。ただし、このことによる問題点の検証は必要である。 ● 加重労働に関する取り組みは、徐々に改善されつつあると思われるが、課題は多い。実態に応じた柔軟な勤務時間の取扱いが求められる。 ● 業務改革という視点で企業は働き方改革をしている。働き方改革は残業を減らすことが改革ではない。業務の仕方改革である。業務の棚卸をしてムダ削減、やり方改革、業務の統合、協働化などいろいろな視点から業務のやり方改革をする。企業はそうしている。学校もしていると思うが見えてこない。 <p>2 情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「学校が発信した情報を見ていると回答した保護者は97%となり、昨年度と比べ8%増加した」ことは評価できる。ただ、どうしてこうなったのかという検証が必要である。 ○ 地域コーディネーターを中心に、学校支援ボランティア活用の体制が整い、地域学習、出前授業等が飛躍的に充実した。 ● 子ども達に稲生地域についてももっともっと知って頂けるように、地域関係者と学校が連携し、ふるさとめぐりや地域の取組みについて出前授業を開催して活動内容のPRしていく必要がある。 ● 学年間の協働が推進されているでしょうか。全校的活動計画、前年度の活動を生かす等が少ないように地域から見えている。 	<p>1 職務遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後も校務支援システム等、ICTを活用し、業務の効率化、協働化を図り、児童や教材研究に向き合う時間の確保に努めたい。 ● 校務分掌の見直しの余地がある。業務の平均化を図り、一部の職員に頼っている状況を改善する必要がある。さらに組織としてのチーム力の向上につなげたい。 <p>2 情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各学年のホームページ担当をより機能させるとともに、一人ひとりの職員が、学年の取組や様々な教育活動を積極的に発信していこうとする意識を持つ必要がある。 ● コロナ禍において、保護者・地域の方が学校を訪れる回数は確実に減少している。学校だよりや各学年、学級通信、HPなどを効果的に活用し、学校の教育活動への理解を図りたい。 ● 地域の豊かな人的、物的な教育資源を可能な限り有効に活用するために、地域コーディネーターとより連携を深めるとともに、年間指導計画作成の際にカリキュラムマネジメントの視点を持つようにしたい。